

未来の看護師たちが看護体験

茨城県看護協会主催の高校生を対象とした「1日看護体験」が8月3日に城西病院で行われました。看護体験には、下館一、下館二、下妻一、古河一、古河中等教育の茨城県西地域の5つの高校から、10人の生徒が参加しました。この介護体験は、看護師志望の高校生が、実際に病院の現場で看護師の仕事の一端を体験するために毎年実施しています。

高校生たちは、午前中は病院内の各部署を見学しました。手術室や病室、臨床検査室、CT室、MRI室、透析センター、健診センターなどの部署を見学。このほか、病院事務室や地域包括相談センターなども見学し、職員から仕事の内容や専門的な話を聴いていました。

午後から、内科病棟、外科病棟、回復リハビリ病棟の3カ所に分かれて体験。ステート(聴診器)を使って心音を聞いたり、車いすを体験したり、注射器の扱い方を学んだり、短い時間にもかかわらず、看護師の一端を体験しました。

稲見三沙希さん(下館二1年)は「病院にはいろんな仕事があるのに驚きました」と語り、林

菜々花さん(古河一二年)は「働いている人が常に患者さんのことを考え動いているのがすごいと思いました」などと感想を話していました。

平成28年
8月4日

